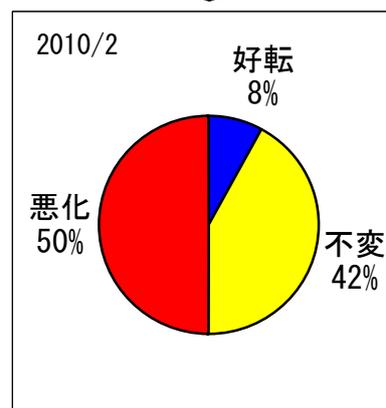
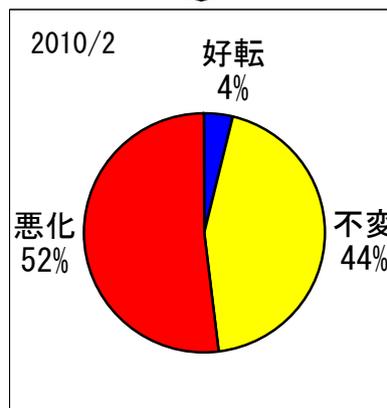
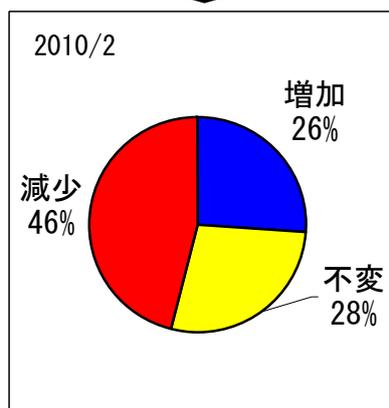
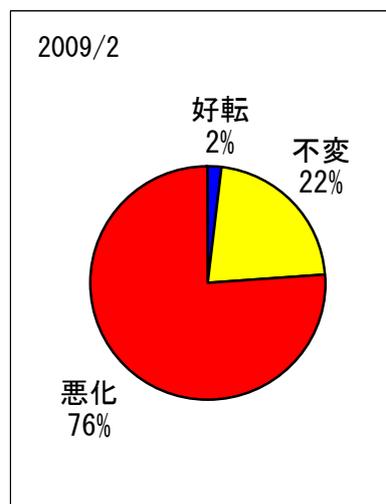
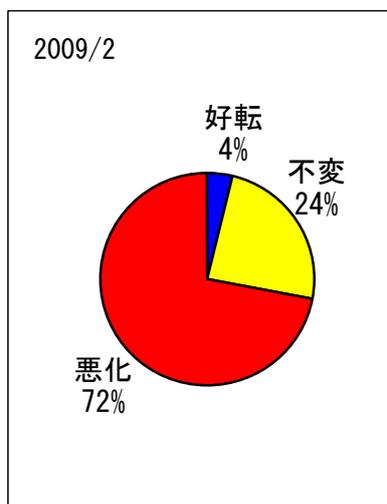
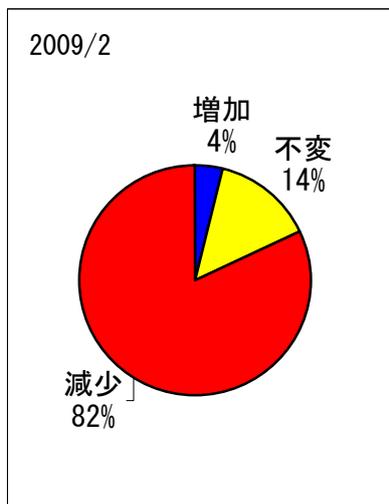


# データから見た業界の動き (平成22年2月分)

売上高 (前年同月比)

収益状況 (前年同月比)

景況感 (前年同月比)



■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

区 分	製造業			非製造業			合 計		
	09/2	10/1	10/2	09/2	10/1	10/2	2009/2	2010/1	2010/2
売 上 高	-70	-45	-25	-83	-23	-17	-78	-32	-20
収 益 状 況	-65	-50	-45	-70	-47	-50	-68	-48	-48
景 況 感	-75	-45	-30	-73	-57	-50	-74	-52	-42

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

## ■ 概 況

本県の2月の景況は、全業種のD I値では、売上高-20（前年同月比+12）、収益状況-48（前年同月比+0）、景況感-42（前年同月比+10）と前年同月比で収益状況のポイントが不変であった以外は、全項目において前年同月比、前月比ともにポイントの改善が見られた。

業種別のD I値で見ると、製造業は、売上高-25前年同月比-20）、収益状況は-45（前年同月比-5）、景況感-30（前年同月比-15）と前年同月比と前月比ともに、全項目においてポイントの改善が順調に進んでいるように見受けられる。

非製造業でもD I値は、売上高-17（前年同月比-6）、収益状況-50（前年同月比+3）、景況感-50（前年同月比-7）と、前年同月比で収益状況のポイントのみがマイナスとなったが、そのほかの売上高、景況感ともに前年同期比と前月比においてポイントは改善している。

県内の景況をD I値で見ると、依然としてマイナス水準であるものの、前年同月比では大きくポイントの改善が進んでいるように見受けられる。

しかし、各業界の連絡員からの報告内容を見ると、県内中小企業の受注や資金繰りなど、直面する課題は依然として深刻であり、今後の景気見通しについても、一部の業界を除いては全く明るさが感じられず、ほとんどの業界において期待感を持っていない。

## トピックス

今回は、組合の会員企業における人材教育の傾向について聞いた。

この調査では、人材教育の方法として①OJTによる社員教育、②外部研修の活用、③①と②の両方を実施、④行っていないから選択してもらい、その理由を簡潔に書き添えてもらった。結果は次のとおり。

製造業(20組合)のうち①「OJT」が2組合、②「外部研修」が2組合、③「両方」は4組合、④「行っていない」10組合、無回答2組合であった。

非製造業(30組合)では、①「OJT」が2組合、②「外部研修」が6組合、③「両方」8組合、④「行っていない」は11組合、無回答3組合という結果になった。傾向としては、製造業、非製造業ともに「OJT」のみとした組合は少数であったが、非製造業においては、「外部研修」、「①と②の両方」とする回答が製造業と比較してやや多かった。

なお、製造業、非製造業を通じて最も多かった④「行っていない」の理由としては、研修の対象となる「人材がない」教育にかかる「金銭面での余裕がない」「時間がない」とする回答がほとんどを占めた。長引く不況が企業の教育研修・人材育成などの取り組みを消極的にしている。

## ■ 業界の声

### 【製造業】

- 食料品（水産物加工）**／婚礼用食材が日曜祝日の日柄が悪く、結婚組数が少なく、数量・価格面とも低調。ギフト関連も消費マインドが低い。節約が食品関係にも及んできており、先行き不透明。
- 食料品（菓子）**／和菓子業界は3月に入り、桜餅・草餅・柏餅と忙しい季節に入ったが、7、8月頃には砂糖の大幅値上げの予定があり、依然厳しい状況。
- 紙・紙加工品**／チリの大地震の影響でチリでのパルプ生産・出荷がストップ。中国の事情もあり今後パルプの調達が困難になる可能性がある。回復まで数ヶ月かかると予想。
- 窯業・土石（砂利）**／年度末の工事の影響で売上は増加。渇水期に実施された河川工事が売上増加の大きな要因。売上増加により資金繰りは好転したが、収益状況は原材料費（原石）との関係で好転していない。
- 窯業・土石（生コン）**／2月の実績は昨年度より35%悪化。3月も昨年より30%程度落ち込むと予想。
- 鉄鋼・金属**／昨年末よりデバイス関連の仕事が出てきた。建設関連は未だ低迷。好転はしているが回復の速度は鈍い。一昨年の5～6割の仕事量。
- 一般機器**／2月後半から3月の初めになって急に注文が増えてきた。休日返上で生産にあっている。
- 電気機器**／一部の取引先は、好転して6月頃までの生産計画が明確となったが、その他は低迷。半導体関連は多忙な状況にあるが、価格が安く受注しても人件費が捻出できない。設備、部品は期末を迎え予算の消化、在庫調整のためか受注の拡大が見受けられるが、一時的では。

## 【非製造業】

- 卸売（宝飾）／店頭の一部からは前年実績より多少回復しているとの話。店頭とメーカーという時差はあるが、店頭の回復が続くことに期待。
- 小売（青果）／月の後半、一般的に野菜等が値上がり売上高は増加したものの、全体としては前年と変わらず。
- 小売（食肉）／3月以降輸入原材料の値上がりが予想され、競争力のない小規模店舗は厳しい。
- 小売（水産物）／売上の不振は、高齢化している小売商の業界においては事業を継続することに対するあきらめムードを助長している。
- 小売（電機製品）／テレビ中心に順調に推移。エコポイントの継続も決まった。太陽光発電、エコ給湯機、IHヒーター等を含めたエコ商品の販売も順調に推移しており、住設機器が全体の下支えに貢献。リサイクル製品の引き取り実績は山梨では全国平均を大きく上回っている。
- 小売（事務機文具）／法人への販売が減少。国、県等の官庁への納品価格の低下と納品高の減少、通販の台頭により厳しくなっている。
- 小売（石油）／原油価格は70ドル前後で、世界的な景気の先行き不安と需要の減退見通しの懸念から下落傾向。当分の間ガソリン・軽油価格は横ばい、灯油は需要のピークが過ぎ今後日増しに暖かくなることから、当面は価格の上昇はないと予測。
- 宿泊業／設備投資を検討するも、金利の負担が大きく、事業資金の借入も難しく、厳しい。  
2月に入りやや景気が上向いてきた感あり。
- 美容業／県内に美容格安店が6グループ程進出してきている。既存店も美容料金を引き下げ、対抗している。
- 自動車整備／エコカー助成があるものの整備には結びつかず。需要はやや減少傾向。販売単価の低廉化傾向に歯止めがきかない状況。価格ダウンは今後も続く。
- 建設業（総合）／3月で公共工事が完了し、4～8月頃まで工事量の減少が予想され、経営状況が厳しくなる。デフレ傾向が続いているが、建設資材は売上不振のために値上げ要請あり。
- 建設業（鉄構）／県内の物件数は相変らず少なく、受注量の確保が難しい状況にあり、受注価格もあり得ない金額で工場加工費が確保できない。
- 設備工事（管設備）／今年度は公道修理工事が減少した。官公需に依存する組合員の割合が大きい。
- 運輸（タクシー）／昨年比での売上は伸長。タクシーの乗務員が僅かだが増加し、クルマの稼働率が良くなったことが要因。業界全体の動向はまだまだ厳しい。
- 運輸（トラック）／機械関連では、半導体の在庫で品不足が出始めており、3月末までは輸送需要が期待できそう。